



あの記事は今 No.4

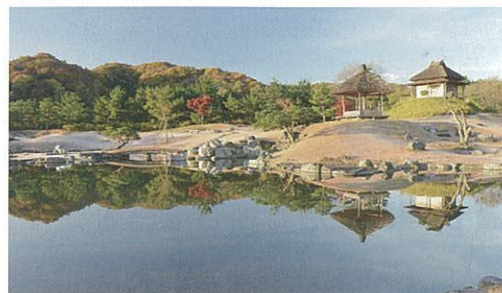
# 甘楽町の歴史を活かしたまちづくり

甘楽町 建設課

甘楽町では平成22年に町制50周年事業として、歴史まちづくり法に基づく「甘楽町歴史的風致維持向上計画」を策定しました。この計画は小幡城下町地区を重点区域として設定しており、そのなかにある有形・無形の文化財の保存や維持のための整備や管理などを進めることにしています。町では国指定名勝である「楽山園」を中心とした歴史的まちなみの保存・整備や、交流人口の増加を目指した様々な事業に取り組んできました。ここではその一部を紹介します。

## ■ 国指定名勝「楽山園(らくさんえん)」

楽山園は、江戸時代初期に織田氏によって造られた小幡藩邸の庭園で、県内に残る唯一の大名庭園です。平成12年の国名勝指定から12か年をかけて整備を行い、現在では春のお茶会や夏には蛍の観賞会、また秋はお月見会やかんら薪能など様々な催しを開催しており、四季を通して町内外からの来訪者に楽しめる庭園になっています。



借景の山並みが庭園に趣を添える秋の様子

## ■ 信州屋

城下町小幡の“桜並木”や日本名水百選のひとつ“雄川堰”に近接する信州屋は、明治時代後期に建てられた古民家です。地域の中心的な商店として近年まで営業を続け、地域住民の生活を支えています。また大正時代は2階部分で養蚕を行った時期もありました。平成23～25年度にかけて往時のたたずまいを残しながら改修し、現在は人と文化のコミュニティベースとして、また来訪者と地元住民とを結ぶ交流施設として活用されています。



桜並木と往時のたたずまいを残す信州屋

## ■ 旧小幡藩武家屋敷「松浦氏屋敷」

松浦氏は小幡藩の上級武士の家柄で、その屋敷は武家の屋敷構えと当時の庭園を良好な状態で現代に残しています。そのため江戸時代の上級武士の生活環境や趣を垣間見ることができます。平成24～28年度の調査及び保存修理・耐震改修を経て、一般公開をしています。現在は「楽山園」や「織田宗家七代の墓」などを巡る観光ルート上にあり、来訪者にも人気のスポットになっています。



武士の暮らしを垣間見る屋敷と庭園

## ■ 織田宗家七代の墓(織田公公園)

江戸時代初期から約150年間小幡地域を治めたのは、織田信長の次男・信雄を初代とする信邦までの宗家8代の領主でした。そのうち7代信富までの墓所が現存しています。この史跡は、城下町小幡の歴史やまちの成り立ちを知る上で重要なものであり、その周辺も含めて良好な景観形成が必要です。今後は墓所とその周辺を「織田公公園」として整備し、文化財の活用と良好な景観の形成、また来訪者と地元住民の交流の場として利用されるよう計画しています。



桜の中に鎮座する織田宗家七代の墓:整備前

計画策定から7年が経過し、観光案内ボランティアによる受け入れ、また積極的に情報発信等を行っており、歴史的風致に興味を持つ来訪者が増加しております。今後は研修会等を通じて、ボランティアの資質向上を図るなど受け入れ態勢を更に強化して、地域住民との対話を基調としながら歴史的風致を活かしたまちづくりを展開していきます。

